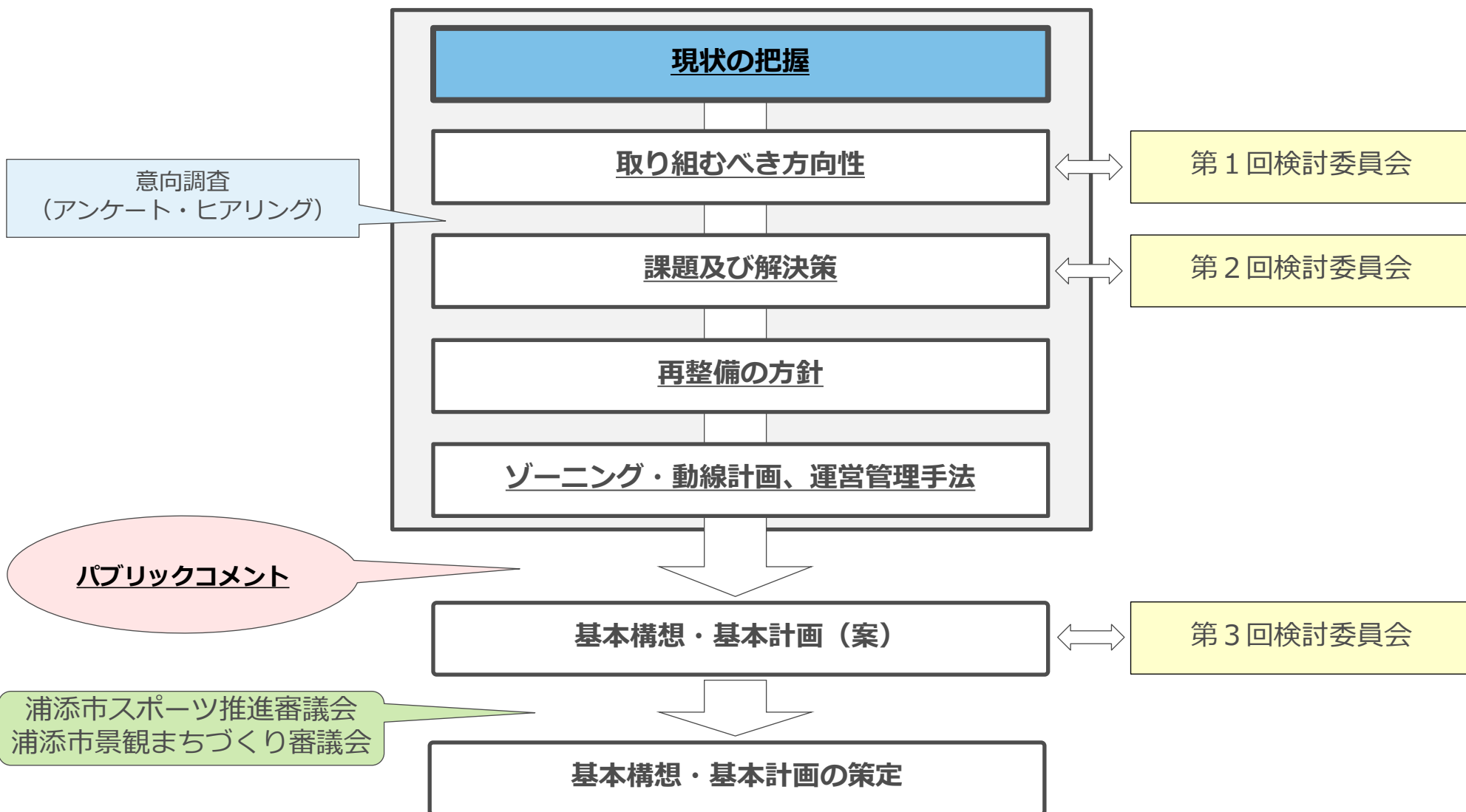


3 現状及び取り組むべき方向性

- 上位計画及び関連する計画、施策等の把握、整理を行うとともに、現場踏査及び既往資料などにより、現状を把握します。（アクセス性、利用実態等）



- 浦添運動公園は県内の運動公園施設でも**那覇空港からのアクセス性が高い**場所です。また、**周辺の運動公園からもアクセスしやすい**場所に立地しており、他施設でキャンプしている団体との練習試合など組みやすい特性があります。

那覇空港からのアクセス時間

車

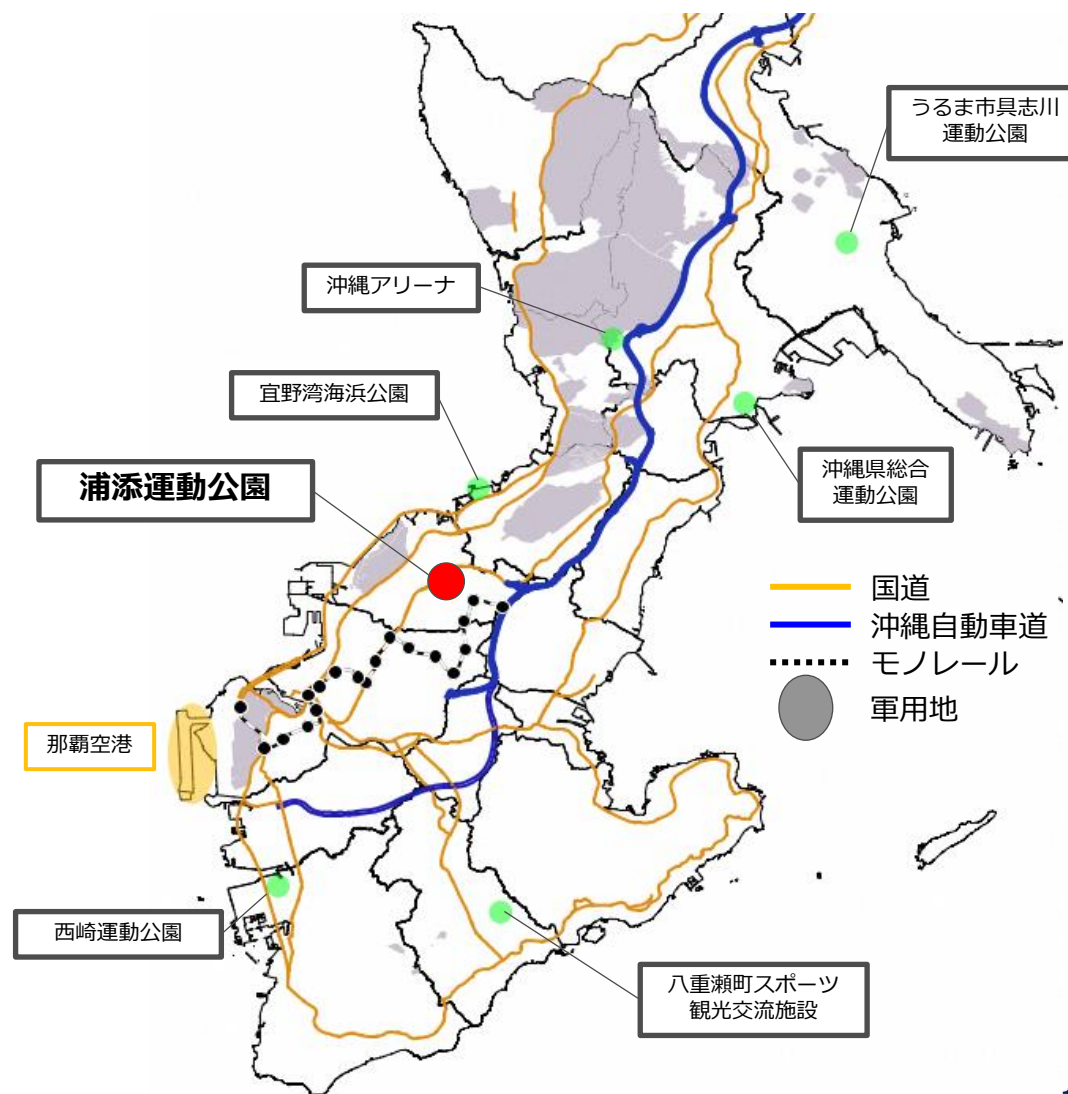
- ・ 国道58号を利用：約30分
- 他の都市公園（アリーナ・競技場）と比較**
- ・ 西崎運動公園：約13分
- ・ 宜野湾海浜公園：約30分
- ・ 八重瀬町スポーツ観光交流施設：約40分
- ・ 沖縄アリーナ：約40分（有料区間）
- ・ 沖縄県総合運動公園：約50分（有料区間）
- ・ うるま市具志川運動公園：約50分（有料区間）

バス

- 那覇空港～那覇BT～浅野浦バス停～浦添運動公園**
- ・ 那覇空港～那覇BT：約11分
- ・ 那覇BT～浅野浦バス停（21,88,90,98,112,190番）約30分
- ・ 浅野浦バス停～浦添運動公園：徒歩約5分

モノレール

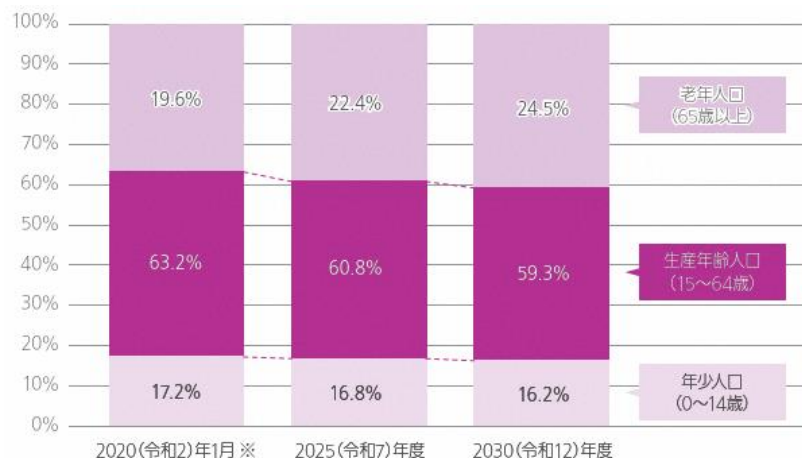
- ①那覇空港駅～浦添前田駅～浦添運動公園**
 - ・ 那覇空港駅～浦添前田駅：約35分
 - ・ 浦添前田駅～浦添運動公園：徒歩約15分、シェアサイクル約5分
- ②那覇空港駅～おもろまち駅～仲間入口バス停～浦添運動公園**
 - ・ 那覇空港駅～おもろまち駅：約21分
 - ・ おもろまち駅～仲間入口バス停：約28分
 - ・ 仲間入口バス停～浦添運動公園：徒歩約3分
- ③那覇空港駅～おもろまち駅～浅野浦バス停～浦添運動公園**
 - ・ 那覇空港駅～おもろまち駅：約21分
 - ・ おもろまち駅～浅野浦バス停：約9分
 - ・ 浅野浦バス停～浦添運動公園：徒歩約5分



① 浦添市の人口推移

- 全国的に人口減少下にある中で、本市の人口は増加傾向が続いており、2030（令和12）年には、概ね12万1千人を見込みます。
- 一方で、年齢3区分別人口は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）は減少し、老年人口（65歳以上）が増加をしていく見通しであり、2030年に24.5%になる見通しです。

《将来人口推計》



出典：浦添市「第五次浦添市総合計画」

② 入域観光客推移

- 新型コロナウイルス感染症流行の令和2年1月以降は観光客数が激減しましたが、令和4年になり回復傾向にあります。
- 令和4年度上半期の入域観光客数は、299万7,600人となり、対前年同期比で163万3,400人、119.7%の増加となっています。

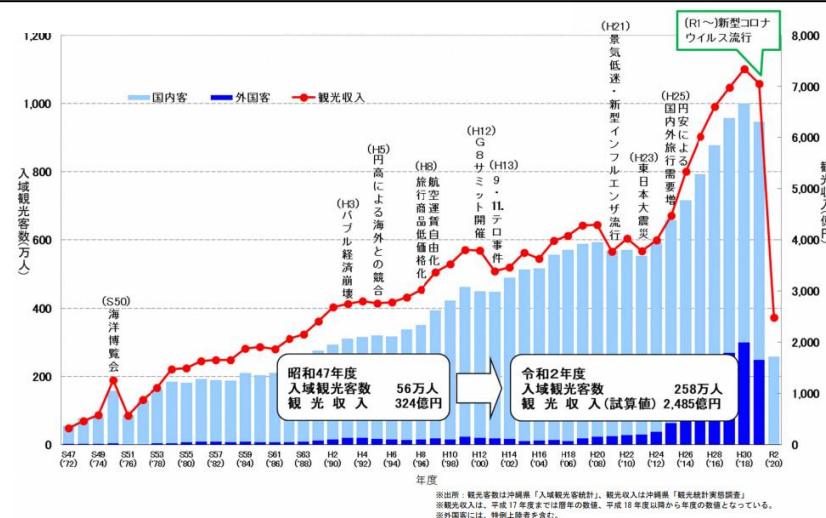


図 月別入域観光客数の推移 (令和元年度～令和4年度)

出典：沖縄県「令和2年版観光要覧」

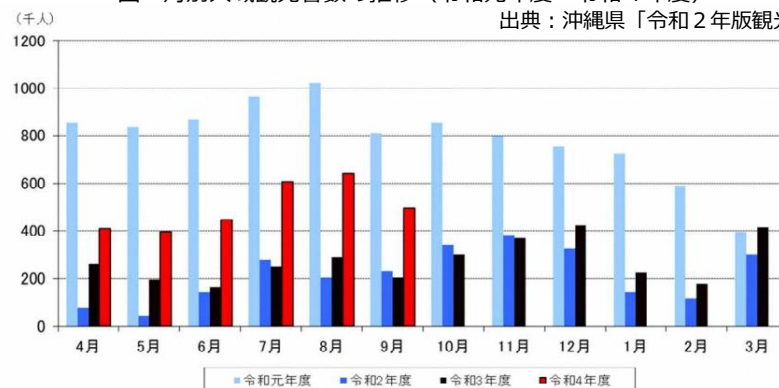


図 月別入域観光客数の推移 (令和元年度～令和4年度)

出典：沖縄県「令和4年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況」

① 浦添運動公園の利用者数推移

- 施設全体の利用者数は、新型コロナウイルス感染症流行前のH30年度では97万人の利用でした。令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染症流行により、利用者数は減少し、R2年度およびR3年度は30万人まで減少しています。利用者数の回復に向けた取組が必要。
- 最も利用の多い施設は陸上競技場であり、次に市民体育館、まじゅんらんど、屋内運動場、市民球場の順で続きます。

表 利用件数及び人数

施設名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
陸上競技場	505,595	498,804	655,517	427,085	250,618	101,331	90,954
市民体育館	172,199	168,547	165,868	192,068	151,142	73,294	72,938
まじゅんらんど	92,014	95,776	90,367	84,196	86,508	51,753	41,425
屋内運動場	74,052	75,431	76,166	83,058	74,463	43,894	37,014
市民球場	79,996	54,697	58,764	83,169	61,239	19,276	35,972
武道場	60,795	81,592	67,597	81,541	57,524	38,214	30,826
屋外運動場	18,125	14,704	17,918	16,300	16,254	10,142	8,421
相撲場	3,621	3,349	3,697	3,356	3,027	1,566	2,943
施設全体	1,006,397	992,900	1,135,894	970,773	700,775	339,470	320,493

利用割合

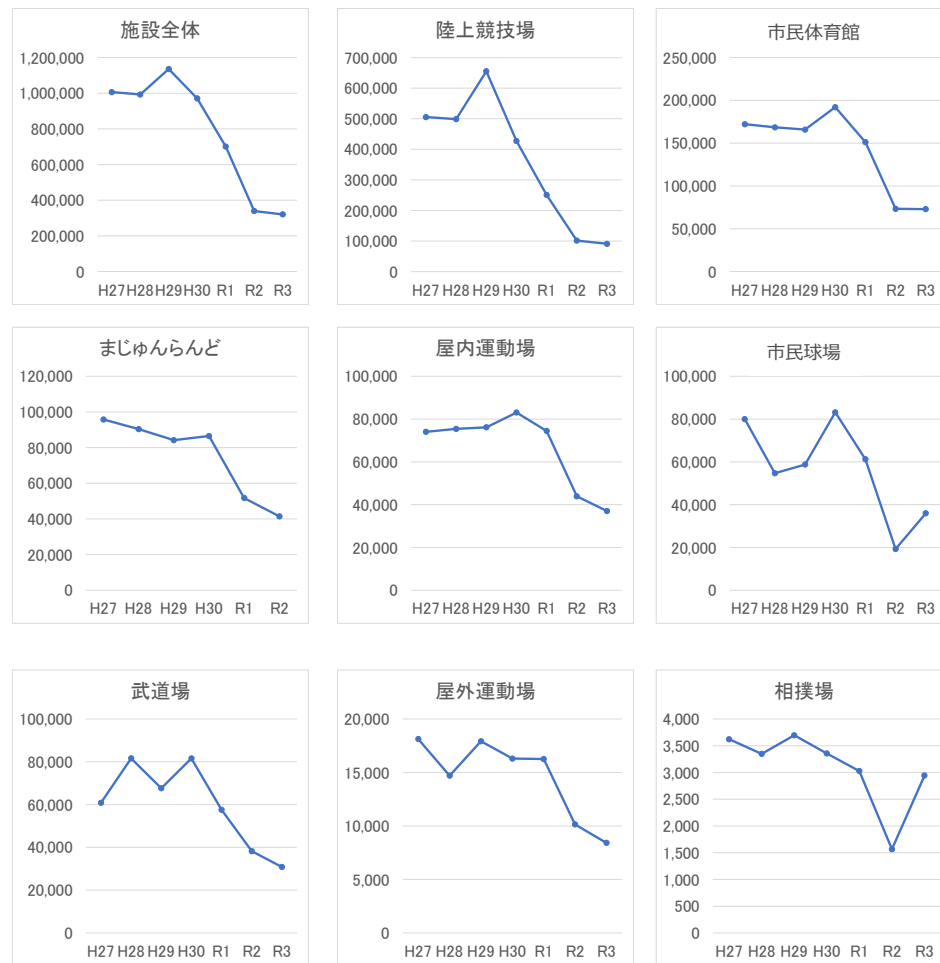
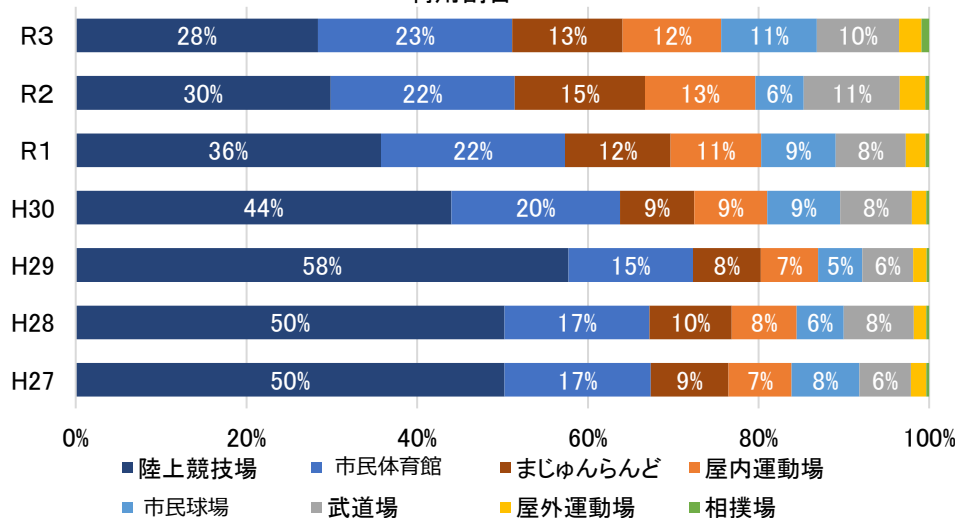
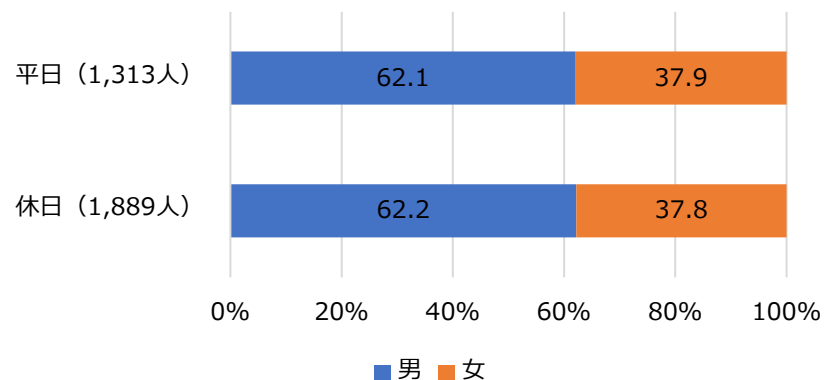
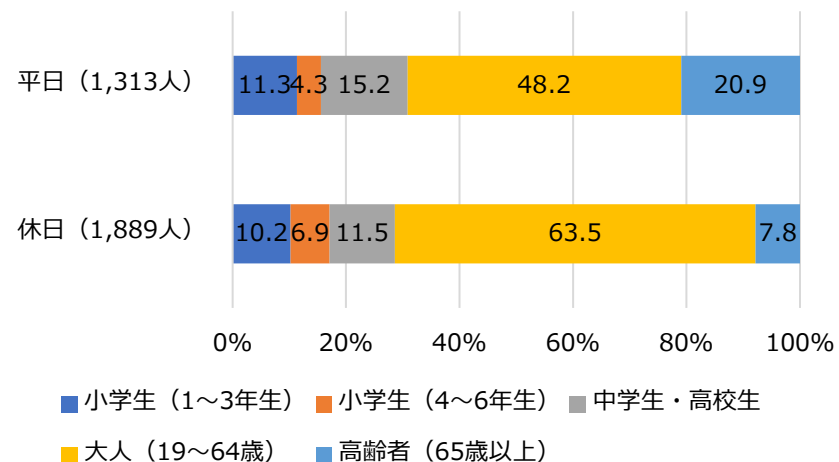


図 施設別利用件数及び人数の推移

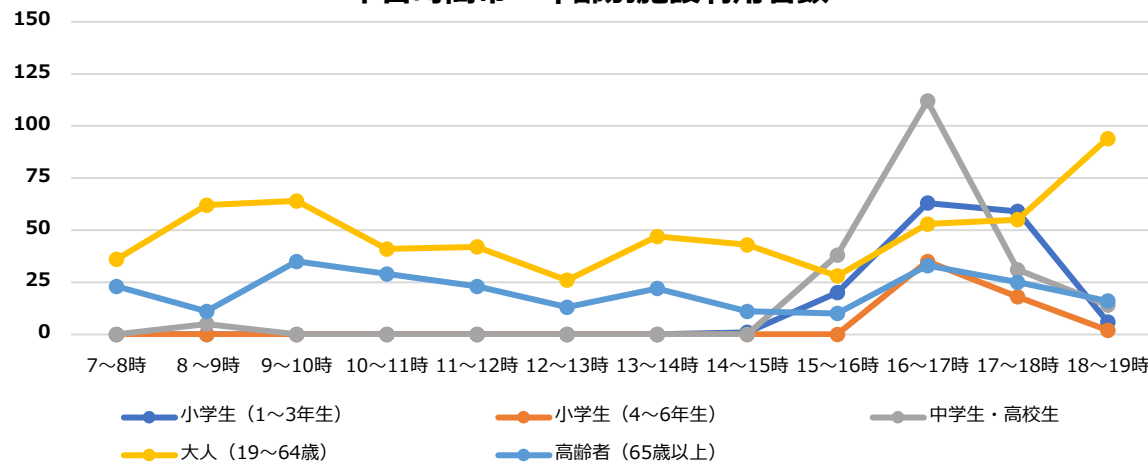
出典：浦添市資料より作成

② 利用者実態（年齢層、滞在時間、交通手段等）（令和3年度都市公園利用実態調査「利用者数調査」（国土交通省）の結果より）

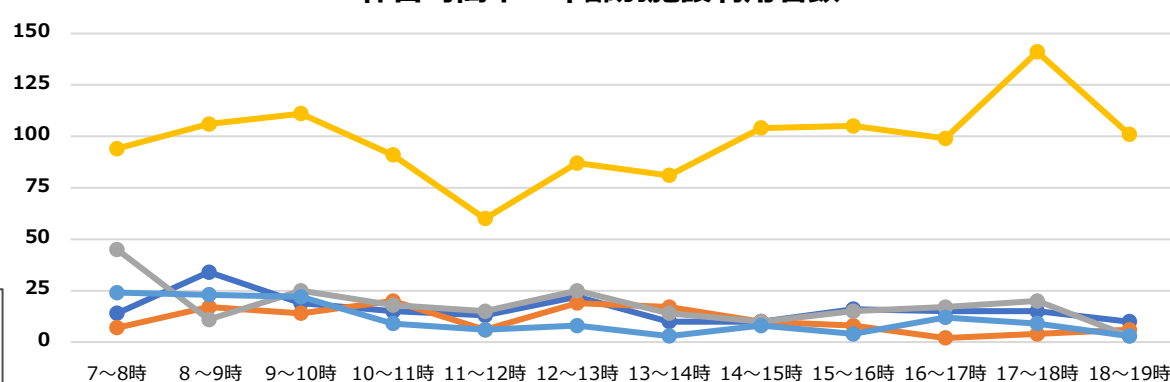


- ・ 平日の利用者数は約1,300人、休日の利用者数は約1,900人で平日の約1.4倍の利用になります。
- ・ 年齢別利用では、大人の利用が最も多く、平日では高校生以下の利用が約3割、高齢者が約2割です。高齢者は平日の利用割合が多くなっています。
- ・ 男女別利用状況は男性が6割、女性が4割となっています。
- ・ 割合の低い高校生以下や高齢者、女性の利用も考慮した施設整備が必要です。

平日時間帯・年齢別施設利用者数



休日時間帯・年齢別施設利用者数



- ・ 平日は、午前中には大人・高齢者の利用が主であり、15時以降から学校を終えた小・中・高校生の利用者が増え、18時以降に大人の利用が増えています。
- ・ 休日は、特に大人（19～64歳）の利用が多くなっています。
- ・ 利用時間帯を考慮した施設運営等が必要です。

③ 利用実態（居住地、主な交通手段等）（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

概要：浦添運動公園及び拠点施設の利用者へのアンケート調査

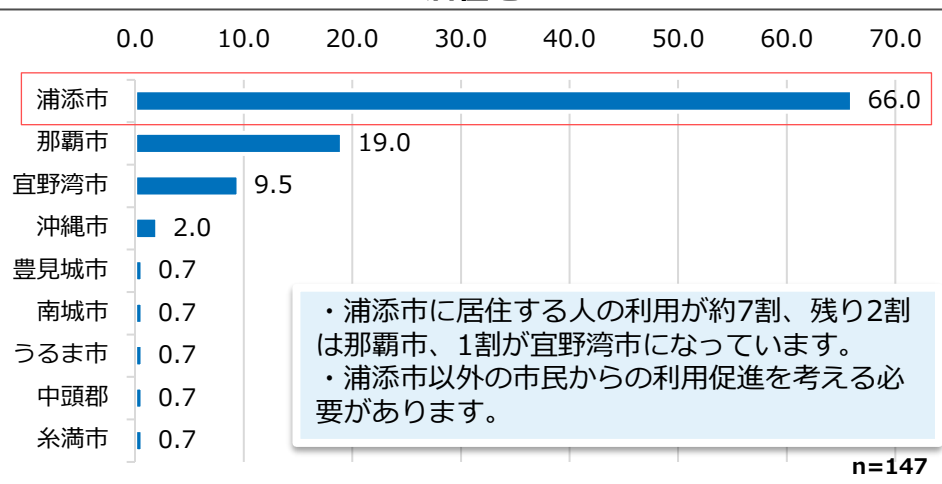
実施日：令和3年10月17日

対象者：小学生以上

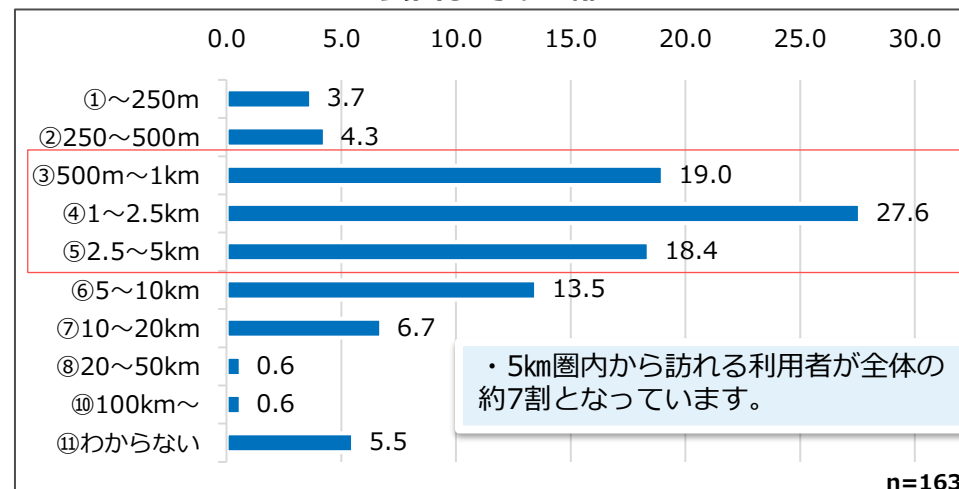
実施方法：公園の出入り口で退園者に回答（紙方式とWeb方式）

アンケート回答者：178名

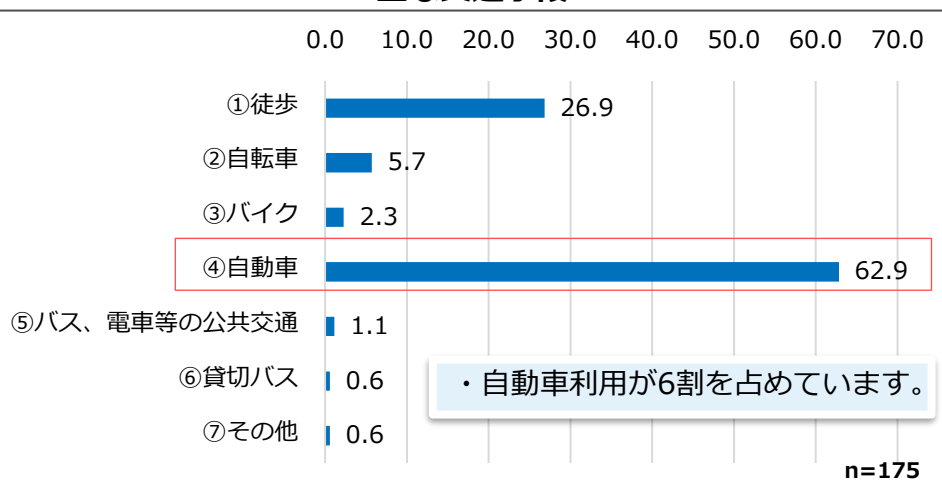
居住地



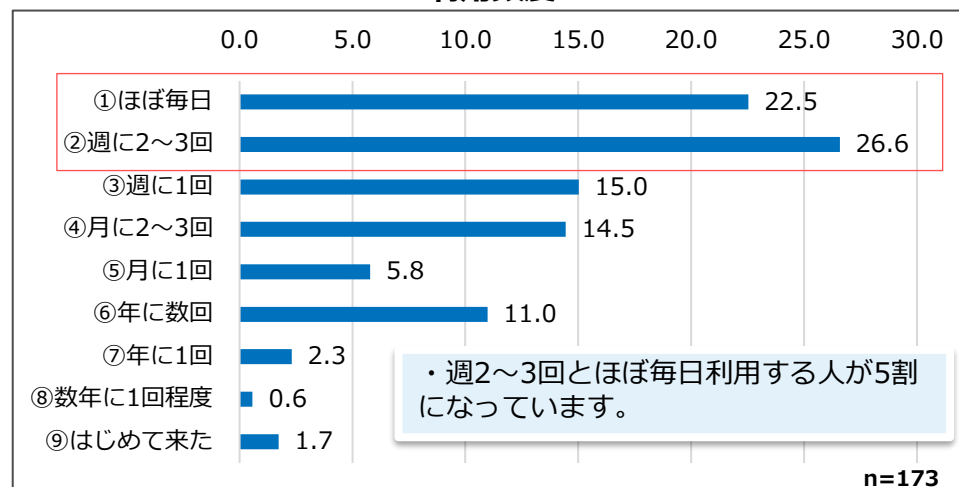
公園までの距離



主な交通手段



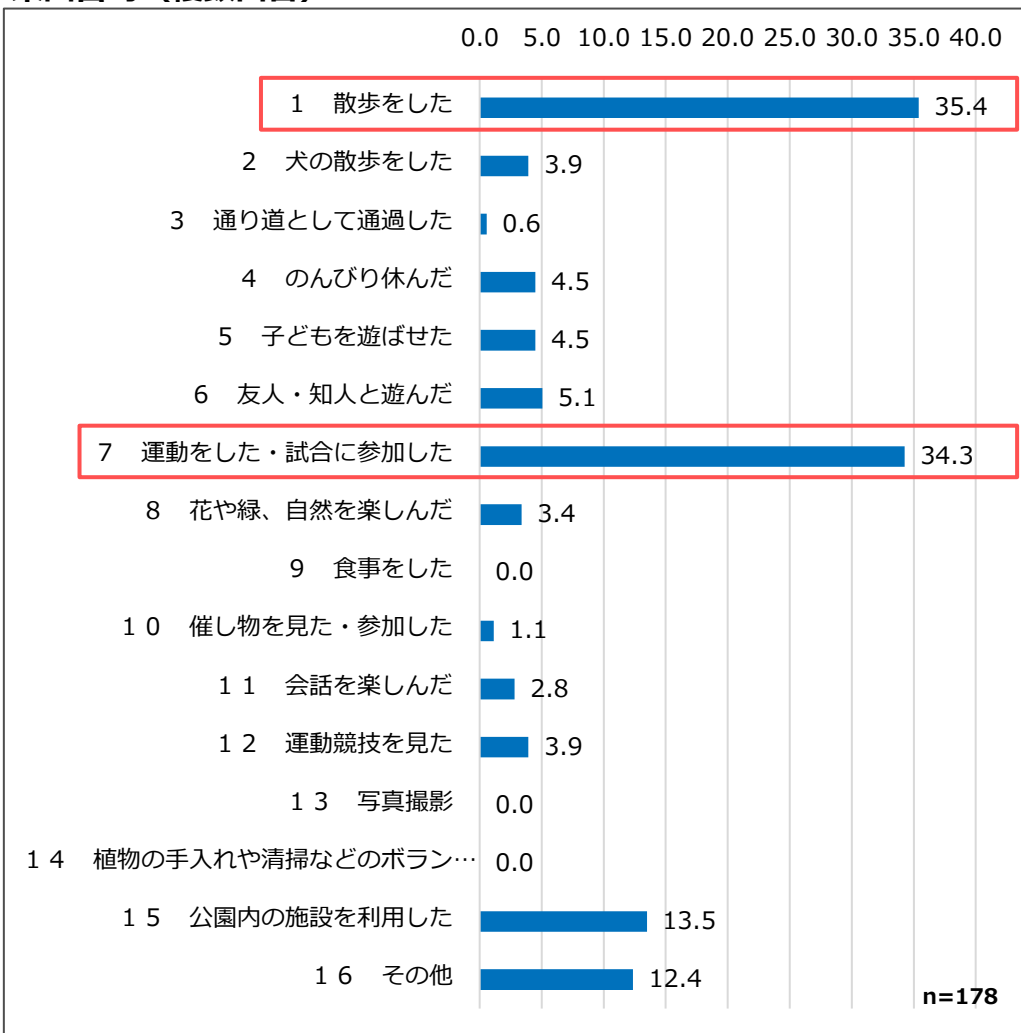
利用頻度



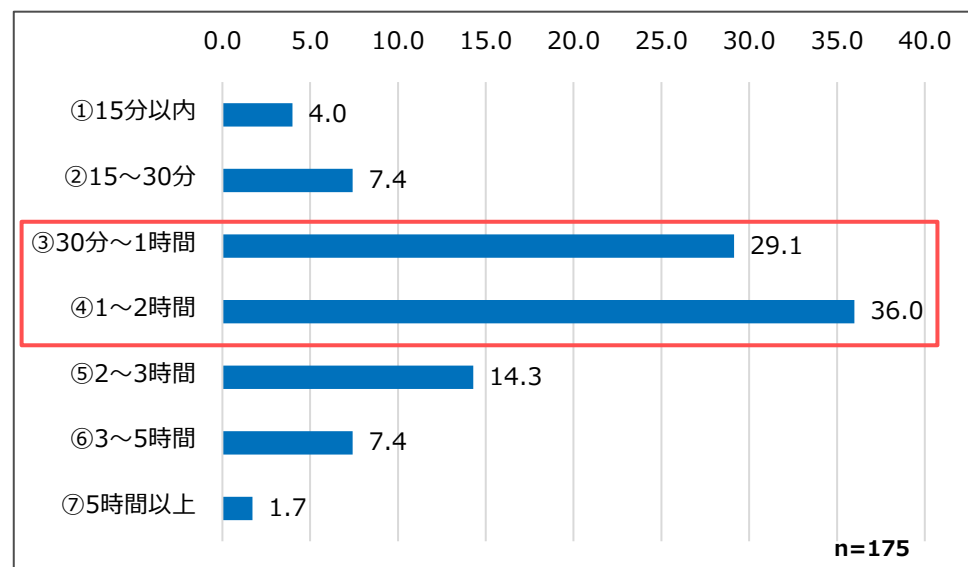
④ 利用実態（来園目的、滞在時間）（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- 運動公園の来園目的は、**散歩や運動・試合参加での利用**の回答が多くなっています。また、滞在時間は**30分～2時間の滞在が約7割**を占めています。
- 運動競技を観るために来園した人が少ないため「観る」スポーツの促進や多様な活動を行えるような柔軟な公園の利用が考えられます。

来園目的（複数回答）



滞在時間



⑤ 年齢別の来園目的、滞在時間等（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

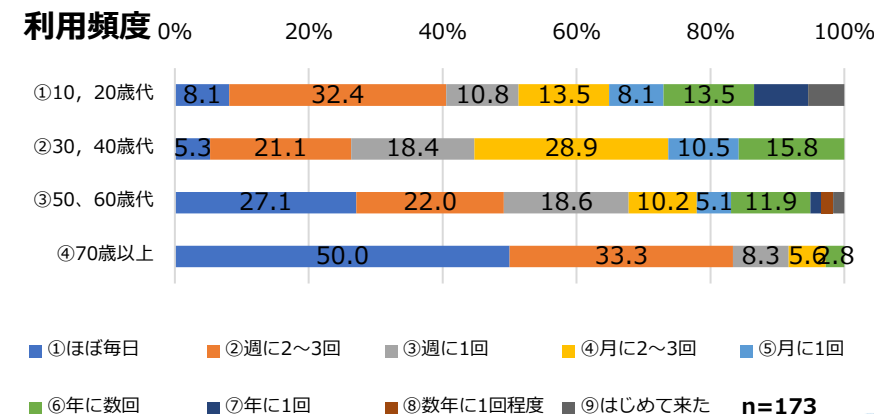
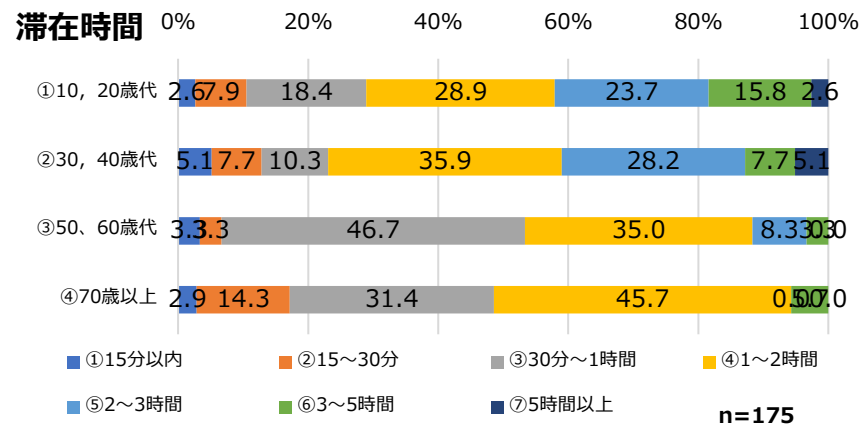
- 年齢別・来園目的をみると50、60歳代と70歳以上の主な目的が散歩での利用となっています。70歳以上では、会話や自然を楽しむ目的での来園も見られます。
- 10、20歳代と30、40歳代の約4割は、運動・試合参加での利用となっています。
- 10、20歳代では、友人・知人と遊ぶ目的での来園も見られます。
- 滞在時間をみると50歳以上の来園者は2時間以内の使用が多く、10～40歳代では2時間以上の利用者が多くなっています。
- 利用頻度は、特に50～70歳代でほぼ毎日、週2～3回の利用が多く、高頻度で利用されています。

- 散歩や運動、試合への参加を目的にリピートでの利用者が多いことから、観るスポーツの開催や交流の場としての施設利用など多様な目的での来園を促進する取組等が考えられます。

来園目的（複数回答）

問7 来園目的	①10、20歳代	②30、40歳代	③50、60歳代	④70歳以上
1 散歩をした	7.9	15.4	42.6	73.0
2 犬の散歩をした	5.3	5.1	1.6	2.7
3 通り道として通過した	0.0	0.0	0.0	2.7
4 のんびり休んだ	7.9	0.0	4.9	5.4
5 子どもを遊ばせた	2.6	10.3	4.9	0.0
6 友人・知人と遊んだ	18.4	2.6	0.0	2.7
7 運動をした・試合に参加した	44.7	48.7	34.4	10.8
8 花や緑、自然を楽しんだ	0.0	0.0	1.6	10.8
9 食事をした	0.0	0.0	0.0	0.0
10 催し物を見た・参加した	0.0	0.0	3.3	0.0
11 会話を楽しんだ	0.0	0.0	1.6	10.8
12 運動競技を見た	5.3	10.3	1.6	0.0
13 写真撮影	0.0	0.0	0.0	0.0
14 植物の手入れや清掃などのボランティア活動に参加した	0.0	0.0	0.0	0.0
15 公園内の施設を利用した	13.2	25.6	11.5	5.4
16 その他	10.5	10.3	13.1	13.5

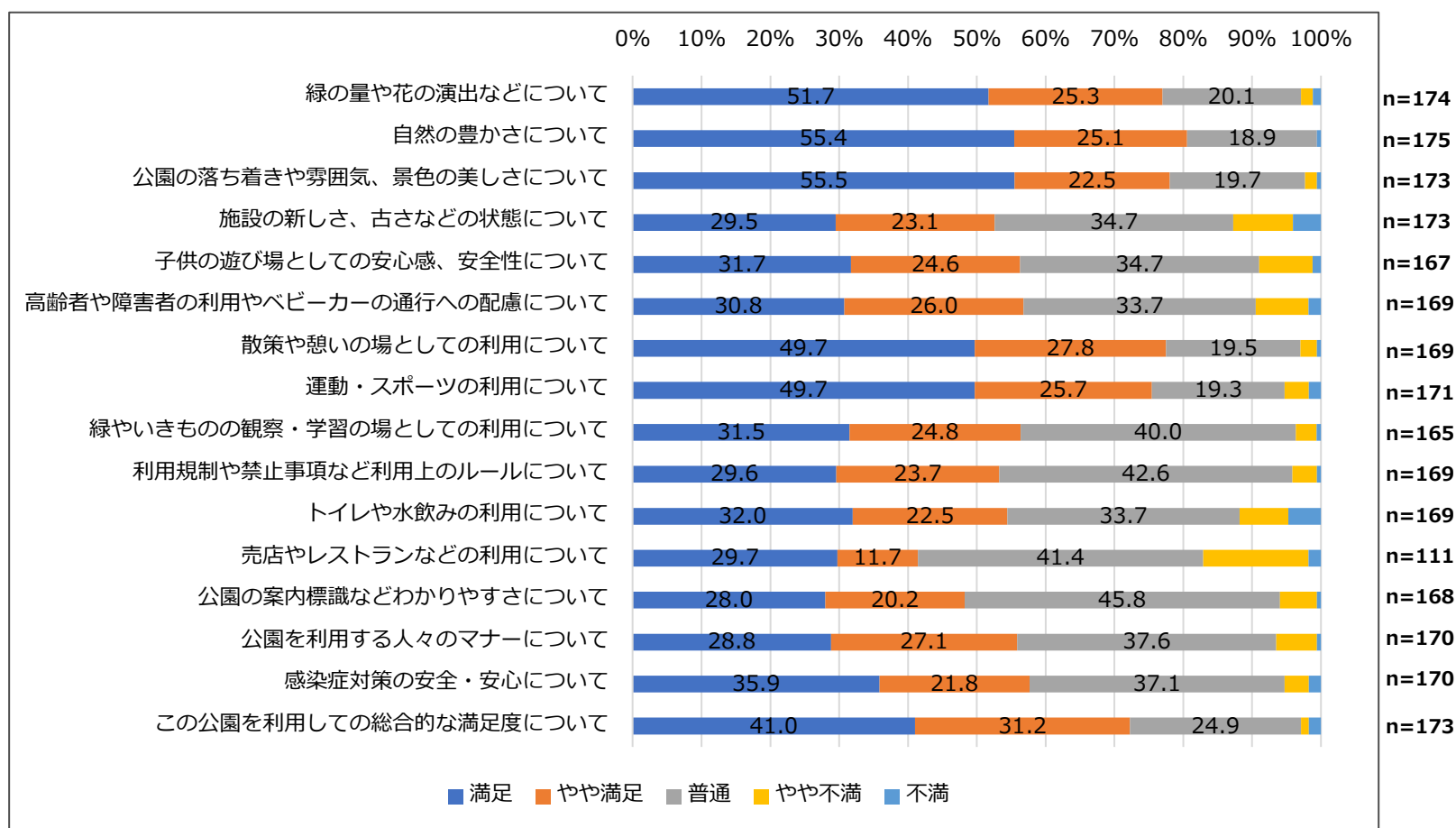
n=178



⑥ 公園の満足度（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- 運動公園利用者は運動公園の自然の豊かさ、みどりの量や花の演出等の自然を感じることができることに高い満足度を示しています。また、憩いの場としての利用や運動・スポーツ施設として利用することも満足度が高い結果になっています。
- 逆に満足度が低い項目は、売店・食事処の利用やトイレ・水飲み場の利用に関して挙げられます。さらに施設の状態や、高齢者・障がい者の利用に対して満足度が低い結果となっています。施設では売店や水回りの整備のほか、バリアフリー整備を行う必要があります。

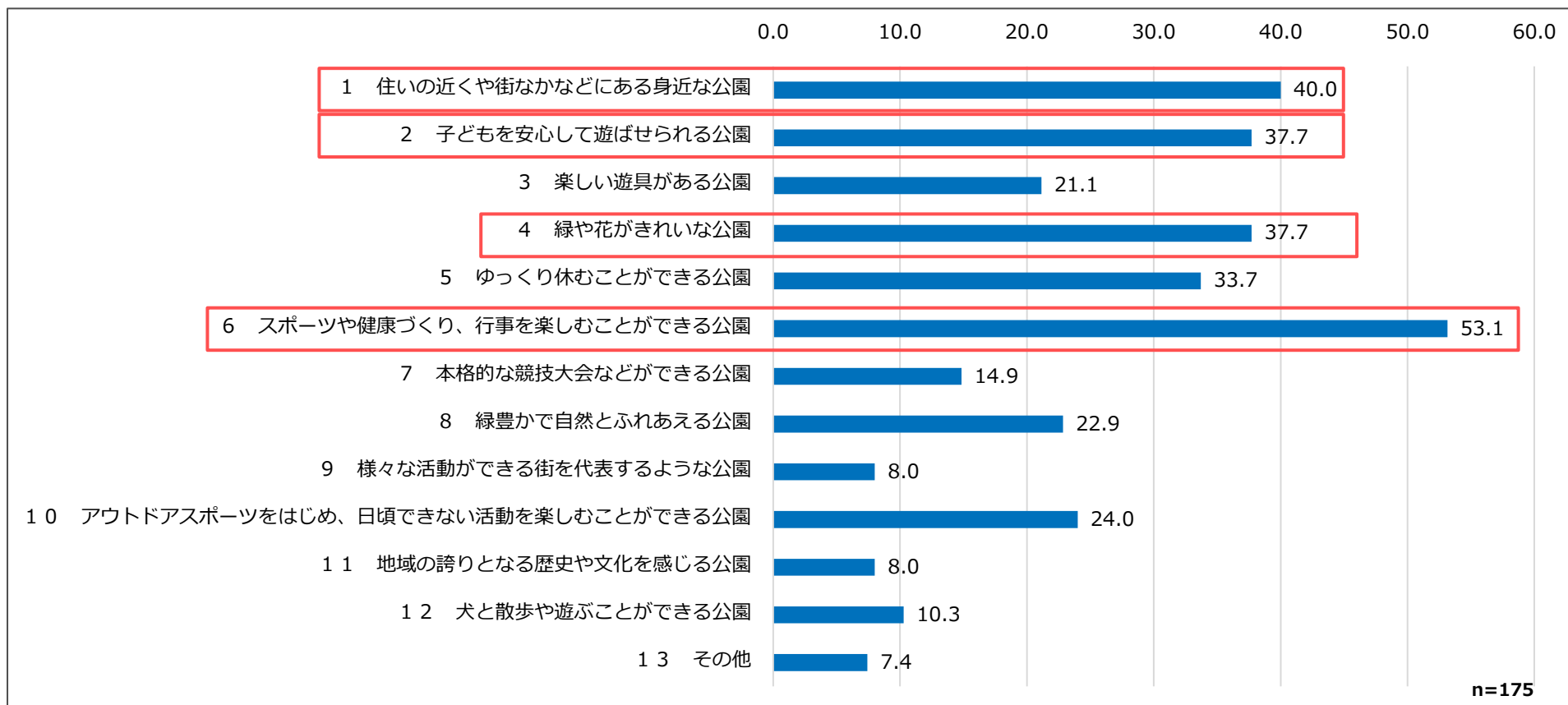
公園の満足度



⑦ 公園への希望（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- 今後の運動公園への希望では、スポーツ・健康づくり・行事ができる運動公園の回答が多くなっています。
- さらに、緑や花がきれいで、子どもや近隣の住民が使い易いような運動公園であってほしいと希望されていることから、新体育館整備で運動公園全体のみどりや景観を損なわないように注意する必要があります。

公園への希望



⑧ 公園への希望（年齢別）（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- ・ 年齢別では、どの世代からも、**スポーツ・健康づくり・行事が楽しめる公園**が希望されています。
- ・ 30歳以上の来園者からは**緑や花がきれいな運動公園であってほしい**と希望されています。
- ・ 30～60歳代までの子育て世代では、**子どもが安心して遊べる公園が希望**されています。
- ・ 10～40歳代では、アウトドアスポーツをはじめ、日頃できない活動を楽しむことができる公園の希望もあります。
- ・ 全体の回答から、運動公園は今よりもさらに利用者にとって**身近な公園を目指し子どもから大人まで年齢層広く利用出来る公園を目指す**必要があります。

公園への希望（年齢別）

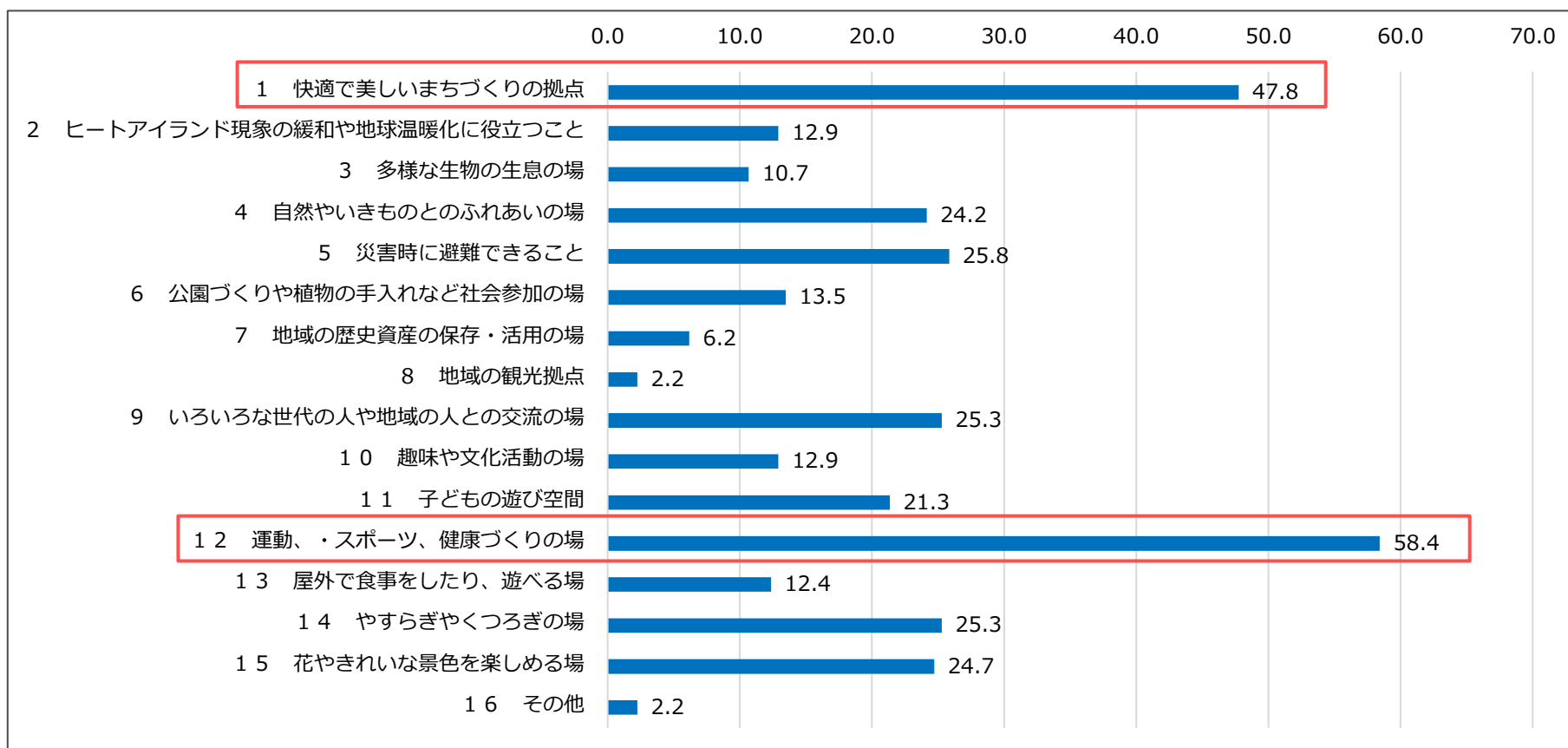
問 1 2 公園への希望	①10, 20歳代	②30, 40歳代	③50, 60歳代	④70歳以上
1 住いの近くや街なかなどにある身近な公園	24.3	44.7	40.0	54.1
2 子どもを安心して遊ばせられる公園	21.6	52.6	46.7	24.3
3 楽しい遊具がある公園	10.8	28.9	26.7	13.5
4 緑や花がきれいな公園	13.5	34.2	45.0	56.8
5 ゆっくり休むことができる公園	13.5	36.8	48.3	29.7
6 スポーツや健康づくり、行事を楽しむことができる公園	59.5	52.6	56.7	45.9
7 本格的な競技大会などができる公園	18.9	18.4	15.0	8.1
8 緑豊かで自然とふれあえる公園	8.1	18.4	25.0	40.5
9 様々な活動ができる街を代表するような公園	5.4	7.9	11.7	5.4
1 0 アウトドアスポーツをはじめ、日頃できない活動を楽しむことができる公園	32.4	28.9	25.0	10.8
1 1 地域の誇りとなる歴史や文化を感じる公園	8.1	0.0	11.7	10.8
1 2 犬と散歩や遊ぶことができる公園	10.8	10.5	11.7	5.4
1 3 その他	8.1	5.3	8.3	8.1

n=175

⑨ 公園の役割への期待（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- 運動公園来園者の多くが運動・スポーツ・健康づくりの役割や快適で美しいまちづくりの拠点となることを期待しています。
- 公園を核に周辺まちづくりへの波及を考慮する必要があります。

公園の役割への期待



⑩ ライフステージに応じた利用形態（令和3年度都市公園利用実態調査「都市公園利用アンケート調査」（国土交通省）の結果より）

- どの年齢層からも、運動・スポーツ・健康づくりのための役割を持った場であることが望まれるとともに、快適で美しいまちづくり拠点の役割を持つことが期待されています。
- 今後、観るスポーツの導入により、運動・スポーツ・健康づくりのための役割の拡充が期待されています。
- 30, 40歳代では子どもの遊び空間、50, 60歳代では災害時に避難できること、70歳以上ではやすらぎやくつろぎの場、花やきれいな景色を楽しめる場としての役割として期待されています。

公園の役割への期待

問 1 3 公園の役割への期待	①10, 20歳代	②30, 40歳代	③50, 60歳代	④70歳以上
1 快適で美しいまちづくりの拠点	31.6	48.7	57.4	51.4
2 ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化に役立つこと	5.3	5.1	23.0	13.5
3 多様な生物の生息の場	7.9	7.7	14.8	10.8
4 自然やいきものとのふれあいの場	21.1	25.6	24.6	27.0
5 災害時に避難できること	7.9	20.5	39.3	29.7
6 公園づくりや植物の手入れなど社会参加の場	10.5	5.1	19.7	16.2
7 地域の歴史資産の保存・活用の場	0.0	0.0	9.8	13.5
8 地域の観光拠点	2.6	0.0	3.3	2.7
9 いろいろな世代の人や地域の人との交流の場	18.4	28.2	29.5	18.9
10 趣味や文化活動の場	7.9	12.8	18.0	10.8
11 子どもの遊び空間	15.8	30.8	19.7	21.6
12 運動・スポーツ・健康づくりの場	57.9	64.1	60.7	54.1
13 屋外で食事をしたり、遊べる場	10.5	17.9	13.1	8.1
14 やすらぎやくつろぎの場	21.1	23.1	24.6	32.4
15 花やきれいな景色を楽しめる場	13.2	17.9	27.9	40.5
16 その他	5.3	2.6	1.6	0.0

① 施設の老朽化・陳腐化

- 運動公園内の各拠点施設の利用について、市民の日常の健康増進や地域団体のイベント利用など多様に利用されています。
- また、ヤクルトスワローズのキャンプ地としての利用や琉球コラソンの試合会場などプロスポーツによる利用もあります。

No	施設名 (供用年)	愛称名	延床面積		観客席・収容人数	利用状況	課題
1	陸上競技場 (昭和59年)	ANA FIELD 浦添	26,000 m ²	トラック：全天候ウレタン舗装（3種公認400m・8レーン） 各種助走路：全天候ウレタン舗装	6,254人 (メインスタンド 1,806人、サブスタン ド502人、芝スタンド 3,946人)	・ウォーキングやジョギングといった市民の健康増進のために利用されているとともに、陸上競技大会をはじめ、プロ野球キャンプ期間中は選手のウォームアップにも利用されている。	・事務室・男子更衣室及びシャワー室・会議室については、老朽化による雨漏りがみられ諸室の半数近くが現在使用できていない。
2	市民体育館 (昭和62年)	ANA ARENA 浦添	7,700 m ²	1 階部分の浦添市武道場面積（2,094 m ² ）を含む 2 階部分 3,000 m ² (60×50m) ※ハンドボールコート2面が確保可能	876 席 (うち2階 680 席、 3階 196席)	・スポーツ利用として、ハンドボールやバレーボール、バスケットなどの練習や大会、年2回程度、日本ハンドボールリーグのリーグ戦が開催されており、多くの観客を集めている。	・貸し館として市民・団体の利用ニーズが高いことから、大会・イベント等の大幅な利用増を見込むことが難しい。
3	武道場 (平成9年)		2,094 m ²	トレーニング室：307.3428 m ² 柔道場：307.3428 m ² 剣道場：298.9714 m ² 空手道場：298.9714 m ² ホール・通路等 881.8066 m ²		・柔道や剣道といった武道に加え、体操や卓球、創作ダンスまで多様な利用が行われており、稼働率も高い。	・剣道の利用者からは、床面が固いという声も聞かれる。
4	多目的 屋内運動場 (平成10年)	ANA SPORTS HALL 浦添	3,692.14 m ²	メインアリーナ 2,220m ² (56×45m) サブアリーナ 510 m ² (17×30m) ※共に人工芝		・テニス、フットサル、ドッジボール、3 on 3、野球練習等に利用されており、専用利用としては、ハンドボール大会、フットサル大会、また、保育園や幼稚園の運動会としても利用されている。プロ野球のキャンプ時には内野練習等でも利用されている。また、人工芝のある貴重な屋内空間として多種目に利用されており稼働率も高い。	・稼働率が高く飽和状態である。 ・人工芝やネット等の経年劣化による更新等が必要である
5	相撲場 (平成16年)	ANA どすこい パーク浦添	491.84 m ²	補助相撲場（屋根なし）・シャワー更衣室含む	観客席約 250 席	・わんぱく相撲や高校総体等に利用されており、本島中南部において、大会で利用できる相撲場は貴重で市内外からの利用がある。	・屋外施設であることから、犬・猫の糞尿等の被害があり、対処に苦慮している。
6	多目的 屋外運動場 (平成9年)	ANA てだこ サブグラウンド	3,450 m ²	※黒土 ※両翼：約 45m		・野球やソフトボールの内野練習、グラウンドゴルフに利用されている。プロ野球キャンプでも利用されている。 ・バッティング練習や試合での利用はできないものの、練習用としてプロ野球キャンプ時や市民の利用がみられる。	・雨天時に水が溜まりやすく、その後の排水に時間がかかり、施設の使用に支障をきたすことがある。
7	市民球場 (平成8年)	ANA BALL PARK 浦添	21,469 m ² (グラウンド 13,284.8 m ²)	両翼 98m、中堅 122m	メインスタンド 3,461 席、内野スタンド 4,943 席、外野芝スタン ド約 6,095 人分	・市民や県民大会クラスの大会も定期的に開催されている。 ・プロ野球のキャンプ利用施設としても定着しており、オープン戦等も開催されている。	・経年劣化による施設修繕等を適切に実施し、維持保全を図っていく必要がある。
8	温水プール まじゅんらんど (平成16年)	ANA まじゅん らんど 浦添	3,543.05 m ²	プール トレーニングルーム 会議室		・温水プールやジャグジーなどが整備されており、市民等の健康増進やリラクゼーションに活用されている。 ・指定管理者が無料送迎バスの運行を行っている。	・設備関係の修繕等があることから、適切な修繕を図り維持保全をする必要がある。

② バリアフリーへの対応

- ・ 運動公園全体及び拠点施設で、誰にでも利用しやすい施設としてのバリアフリー等の環境づくりが必要です。

○第五次浦添市地域福祉計画における位置づけ

○誰にでも利用しやすい施設としてバリアフリー対応の推進

- ・ 障がい者スポーツを普及、推進するために、様々な障がいに対応できるバリアフリーな施設、設備とするとともに、スペシャルオリンピック等障がい者イベントを開催する。また、外国人、LGBTQ 等多様性社会に対応した施設の整備を推進する。

(具体的な提案)

- ・ 点字ブロック、館内移動スロープ、音声案内等
- ・ 多言語案内版の設置
- ・ 多目的トイレ、誰でもトイレの整備
- ・ 障がい者用駐車場の確保 等

○沖縄県福祉のまちづくり条例への対応

○公園について

- ・ 公園では基本的な場面で、出入り口、園路、便所、駐車場、案内板、附帯設備、転落防止のための措置など高齢者や障がい者用に対しての配慮を考える必要がある。

○建築物について

- ・ 高齢者、障がい者等が円滑に利用できる経路、案内設備までの経路、視覚障がい者誘導用ブロックや音声誘導装置などのその施設の利用円滑化経路の整備を行う。

③ 防災機能

- ・ 浦添運動公園の防災機能の確保を図る必要があります。

○浦添市地域防災計画における位置づけ

◆浦添市地域防災計画内での言及（平成 30 年 3 月修正）

○広域避難場所の定義と指定

- ・ 大地震時に周辺地域から避難者を収容し、地震発生後、市街地火災や危険物、建物崩壊等から避難者の生命を保護するために必要な面積を有し、ボランティア等の活動拠点となる公園等の広場をいう。
- ・ 浦添カルチャーパーク・浦添運動公園の2箇所

○食料と生活必需物資の備蓄

- ・ 生活必需品については、災害発生後 3 日以内を目標に調達体制を確立することとする。市は、十分な量の備蓄を行うほか、物資の性格、地震・津波の危険性及び避難場所の分布等を考慮して、集中備蓄、分散備蓄、備蓄拠点の設置など、効果的な体制を選定する。

○災害対策本部の設置場所

- ・ 原則として、市役所本庁内に設置する。災害により市役所庁舎が使用できない場合は、以下の順により使用可能を調査し設置する。また、状況によっては災害対策本部に属する現地対策本部を設置する。
(1) 市消防本部 (2) 市民体育館 (3) てだこホール

○浦添カルチャーパークとともに災害時の広域避難場所に指定されており、最大で避難受け入れ可能面積が 44,000 m²で、収容人員は 44,000 人となっている。

○浦添市市民体育館防災機能に係る調査業務では既存市民体育館の抱える諸課題が指摘されている

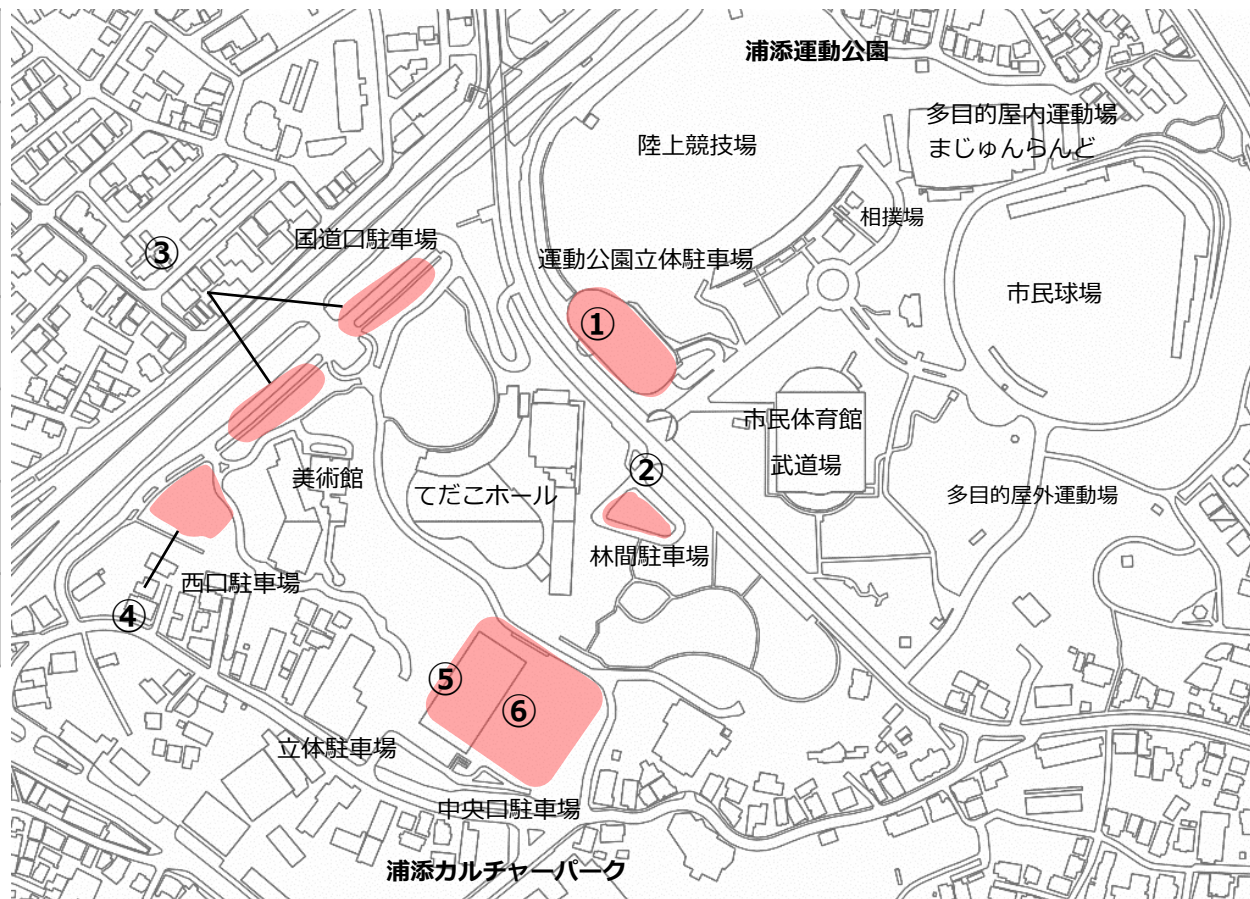
- ・ 非常用備蓄物資の確保が出来ていない
- ・ バリアフリー対策が不十分
- ・ 非常時の水源確保が不十分
- ・ 炊事設備がない
- ・ 空調設備がない
- ・ 非常用電源が不十分など

④ イベント時駐車スペース

- 浦添運動公園には282台分の立体駐車場があり、隣接するカルチャーパークの駐車場と合わせると約900台分整備されています（浦添市役所駐車場約60台分は含まない）。
- 運動公園立体駐車場以外の駐車場は市道を挟んだ南側のカルチャーパーク内に整備されています。

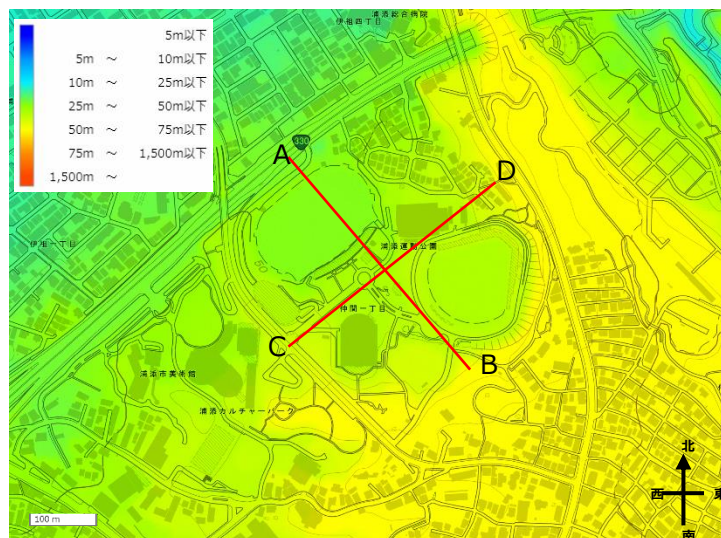
駐車場名		駐車台数
①運動公園立体駐車場		約280台
カルチャーパーク	②林間駐車場	約60台
	③国道口駐車場	約120台
	④西口駐車場	約80台
	⑤立体駐車場	約190台
	⑥中央口駐車場	約160台

出典：新浦添市民体育館整備基本計画



⑤ 地形的特徴への対応

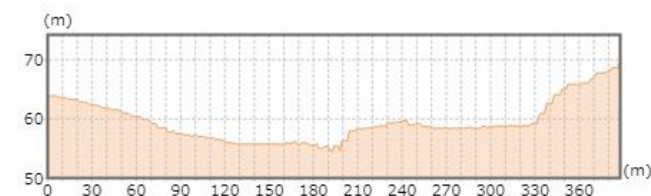
- ・運動公園内は高低差があり、国道330号側から南東方向（図中A→B方向）に標高が高くなっています。
- ・運動公園内は緑に覆われており、豊かな緑地空間を提供しています。また、隣接する浦添大公園やカルチャーパークと連続する緑のネットワークを形成しており、貴重な緑地空間となっています。



色別標高図



A-B断面図



C-D断面図

出典：地理院地図より作成



運動公園及び周辺の緑地

出典：国土地理院「地理院地図（航空写真）」

3 現状及び取り組むべき方向性【3-5 財政・予算の視点からみた運動公園の現況】

① 指定管理者制度費用（公園・運動施設・まじゅんらんど）

- 現在、本公園の管理は、指定管理者制度に基づいて、温水プールを要するまじゅんらんどを「てだこ生き活き共同企業体」と、それ以外の各施設及び公園部分を「てだこサンサン共同企業体」の2団体が管理を行っています。
- 管理運営費について、陸上競技場や体育館は一体的な管理が行われていることから、費目ごとの管理支出も一本化されています。そのため、既存市民体育館の管理費は全体に占める割合を推計し、算定されています（（仮称）新浦添市民体育館整備基本計画（R2.7））

表 管理運営費（新浦添市民体育館整備基本計画（令和2年））

費目	公園全体 （まじゅんらんど除く）	既存市民体育館 （推計値）	新市民体育館
一般事務費	約7,000万円	約5,000万円	約3,000万円
水道光熱費	約3,000万円	約2,000万円	約4,000万円
外注費	約4,000万円	約1,000万円	約2,000万円
合計	約14,000万円	約8,000万円	約9,000万円

- てだこ生き活き共同企業体（代表団体：株式会社フォスタ、構成団体：株式会社トラステック）
- てだこサンサン共同企業体（代表団体：株式会社トラステック、構成団体：美津濃株式会社、株式会社ケイ・ライナー）

表 収支（令和3年度 指定管理者の実績より）

費目	公園全体	備考
収入	約20,200万円	
施設利用料	約3,900万円	体育館、屋内運動場、陸上競技場等
自主事業等	約2,700万円	スポーツ教室、備品レンタル・販売等
指定管理料	約13,600万円	基本及び修繕費
支出	約20,200万円	
人件費	約7,500万円	
その他	約12,700万円	需用費、役務費、委託費等
ネーミングライツ	約1,000万円	全日本空輸（株）と市の3年契約



図 施設配置図

① ニューノーマルへの対応

- ・ 新型コロナ危機を契機に人々の生活様式が大きく変化（ニューノーマル）し、都市に対するニーズも変化・多様化する中、既存ストックを最大限に活用して市民ニーズに応えていくことが求められています。
- ・ **多様な機能を有する公園のポテンシャルを最大限に発揮し、使われ活きる公園を目指す方向性**が示されています。

都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言

- ・ 「使われ活きる公園」の実現に向けた重点戦略と取組が示されている

重点戦略【1】新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの場とする 施策の方向性

- ①グリーンインフラとしての保全・利活用
- ②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり

重点戦略【2】しなやかに使いこなす仕組みをととのえる

施策の方向性

- ③利用ルールの弾力化
- ④社会実験の場としての利活用

重点戦略【3】管理運営の担い手を広げ・つなぎ・育てる

施策の方向性

- ⑤担い手の拡大と共創
- ⑥自主性・自律性の向上

出典：国土交通省「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言」（令和4年10月）

② 脱炭素化への取り組み

- ・ 2020年10月に、国として2050年までに「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」カーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。
- ・ 2021年6月には2030年までの地域脱炭素の行程と具体策を示した「地域脱炭素ロードマップ」が策定されています。
- ・ 脱炭素化に向けた都市公園・緑地に関する取組として、**CO2吸収量を確保するための整備・保全やウォークアブルな都市空間の形成、都市公園への再生可能エネルギー導入等**が示されています。

都市公園における再生可能エネルギー導入の推進

- ・ 災害発生時に避難地や防災拠点となる防災公園を中心に、自立分散型エネルギー確保の観点も考慮しつつ、再生エネルギー施設の導入を推進。
- ・ 公募設置管理制度（Park-PFI）を活用した官民連携による都市公園への太陽電池発電施設の導入も推進。



独立型の太陽光発電による照明灯の例



供給型の太陽光発電施設の例
（屋内型運動施設の屋根に設置）

出典：ニューノーマルに対応した公園利活用の問題
内閣府「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース 会議資料」

③ 持続可能性の確保

- SDGsの実現に向けて運動公園の再整備の検討にあたり、以下のような内容を考慮する必要があります。

SDGsの目標	目標のターゲット（一部抜粋）	運動公園で考慮すべきこと
目標6：安全な水とトイレを世界中に 	- だれもが安全な水を、安い値段で利用できるようにし、だれもがトイレを利用できるようにして、屋外で用を足す人がいなくなるようにする。女性や女の子、弱い立場にある人がどんなことを必要としているのかについて、特に注意する。 - 山や森林、湿地、川、地下水を含んでいる地層、湖などの水に関わる生態系を守り、回復させる。	- 誰もがトイレを利用出来るようにするために、女性や女の子、障がい者などの目線で問題を見つける。 - 利用者実態アンケートの結果ではトイレや水飲み利用についての満足度が低い結果になっているため考慮すべき。
目標11：住み続けられるまちづくりを 	- だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるように能力を高める。 - 特に女性や子ども、お年寄りや障がいのある人などをふくめて、だれもが、安全で使いやすい緑地や公共の場所を使えるようにする。	運動公園内を女性や子ども、お年寄りや障がいのある人を含めて、誰もが安全安心に使いやすい緑地や交流の場所を提供する。
目標13：気候変動に具体的な対策を 	- 気候に関する災害や自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力を、すべての国でそなえ、気候変動への対応を、それぞれの国が、国の政策や、戦略、計画に入れる - 気候変動が起きるスピードをゆるめたり、気候変動の影響に備えたり、影響を減らしたり、早くから警戒するための、教育や啓発をより良いものにし、人や組織の能力を高める。	- 緑地はヒートアイランド現象に対応出来るほか、温暖化や災害防止等にも対応可能なため、運動公園内のみどりを保全・創出する必要がある。 - その際に、周辺の緑のネットワーク形成も考慮する。
目標15：陸の豊かさを守ろう 	- 森林、湿地、山地、乾燥地など陸上の生態系と、内陸の淡水地域の生態系、および、それらがもたらす自然の恵みを、守り、回復させ、持続可能な形で利用できるようにする。さらにあらゆる種類の森林の、持続可能な形の管理をすすめ、森林の減少をくいとめる。 - 砂漠化に対応し、砂漠化、干ばつ、洪水の影響を受けておとろえてしまった土地と土壌を回復させ、持続可能な開発のために欠かせない山地の生態系の能力を強めるため、多様な生物が生きられる山地の生態系を確実に守る。	- 公園内の植物の保全を行うことで、土地・土壌の回復を図り、公園内の生態系や生物多様性を守る。 - 利用者実態アンケートでは公園内の自然の豊かさや、緑や花の量に対しての満足度が高い結果になっているため、今後も緑と花の保全・管理を行っていく必要がある。

③ 持続可能性の確保

SDGsのモデル事業として公園を核にしたまちづくりの展開 (東京都豊島区)

- 国際アートカルチャー都市構想の基本コンセプトである「まち全体が舞台の、誰もが主役になれる劇場都市」の実現に向け、**まちの価値を高めていくための起爆剤として、池袋駅周辺の4つの公園を整備**
- 4つの公園をつなぐ新たな移動手段**として電気バスである「IKEBUS」を導入し、まち全体の回遊性を向上

令和2年度自治体SDGsモデル事業②

165

東京都豊島区 国際アート・カルチャー都市 実現戦略推進事業

東アジア文化都市等を通じて強化されたレガシーを最大限に活用しながら、本区の強みを活かした文化を基軸とした施策を推進するとともに、経済面、社会面、環境面の取り組みを多様な主体との協働により総合的に展開することで、持続発展可能な都市を目指していく。



出典：内閣府地方創生推進室「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業 事例集」(R4年1月)

公園におけるSDGsの取り組み(万博記念公園(大阪府吹田市))

- 豊かな自然環境を維持し、美しい地球環境の保全を図るとともに、サステナビリティに配慮した誠実で責任ある公園の管理運営を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、公園の多様な機能を活かしたSDGsに貢献する取組が行われている。



自然×運動による健康維持

花や生き物など自然とふれあう場や機会の提供、花壇植え替えや清掃のボランティア活動を通じての社会貢献、INWA・JNFA公認のノルディックウォーキングコースで健康維持の推進を図る。



“ほんもの”に触れる

太陽の塔をはじめ、園内のアート作品や周辺文化施設との連携イベントなど本物の芸術や多様な文化に触れる機会を創出する。



循環型エネルギーの利用

間伐材を燃料として園内カフェのピザ窯での再利用、地下水から供給される池の水を川などの園内水路に循環利用、また太陽光発電パネルによって作り出した電力を一部の園内街路灯に利用するなど、循環可能なエネルギーを作り出す。



防災拠点としての役割

地震で大火が起こった時など、いざという時に命を守るための「広域避難場所」に指定。また、災害時には自衛隊などが活動する防災拠点としての機能も担う。



森の循環と再生

園内の間伐材や伐採木から作成したチップや堆肥を利用して木々や草花を育成するとともに、森林の育成を50年かけて実現。



平和について考える

1970年大阪万博当時、国連本部にある「平和の鐘」が国連館パビリオンで展示。現在もその姉妹鐘が当時の鐘楼と共にあり、平和を考える機会を創出。

出典：万博記念公園HP

③ 持続可能性の確保

- 持続可能で柔軟な公園運営に向けた手法の一つとしてPPP/PFIを活用した取組が行われています。

PPP (Public Private Partnership)

公共施設等の建設、維持管理、運営等を**行政と民間が連携して行う**ことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの。

PFI (Private Finance Initiative)

PFI法に基づいて公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

公共施設等運営権制度を活用したPFI事業（コンセッション事業）

収益施設の併設・活用など事業収入で費用を回収するPFI事業（収益型PFI事業）

公共が支払うサービス購入料で費用を回収するPFI事業（サービス購入型PFI事業）

指定管理者制度

包括的民間委託

公的不動産利活用事業

- 官民連携（PPP/PFI）により、良質な公共サービスの提供やコスト削減、地域活性化など、様々な効果が期待できます。今後の地域経済の持続的な発展に向けて、このような官民連携手法の積極的な導入検討が求められています。

出典：国土交通省 PPP/PFI（官民連携）HP

公募設置管理制度（Park-PFI）の特徴

- 都市公園において**飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定する**手続き
- 事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用される
→条件は**園路、広場等の公園施設（特定公園施設）の整備を一体的に行うこと**

出典：国土交通省 都市局「公募設置管理制度（Park-PFI）について」

岡山県津山市 スポーツ施設「Globe Sports Dome」

- 2021年3月末に営業を終了した市のスポーツ施設「グラスハウス」を改修作業し、プールの大部分を埋め立て、スポーツリズムトレーニングを導入した新たなスポーツ施設にリノベーションした。



写真：津山市提供

沖縄県那覇市 歴史文化と触れる「クニンダテラス」

- かつて沖縄で栄えた琉球王国時代の歴史を「楽しみながら」学んでもらう交流の場として松山公園と連携して出来た。歴史展示室、レストラン、交流室からなる複合施設。



出典：那覇市「クニンダテラス 松山公園連携施設概要」

④ 上位関連計画

■ 第五次浦添市総合計画(令和3年3月策定)

- 浦添運動公園の位置するエリアは「ウラオソイ文化・交流ゾーン」として、国内外交流、市民活動が展開する交流空間として整備することが示されています。

運動公園及び施設に関する方針等



ウラオソイ文化・交流ゾーン

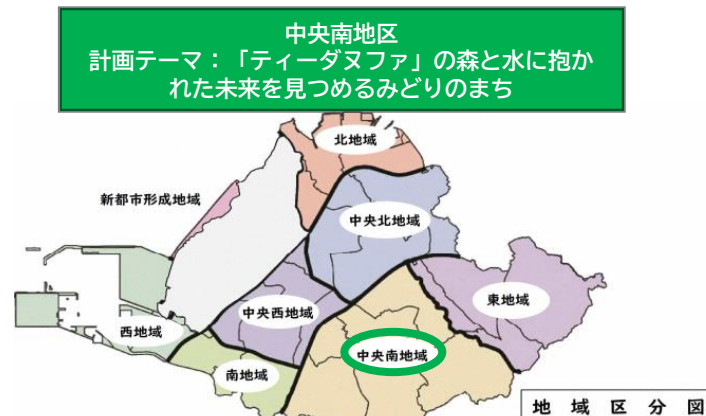
・浦添城跡、伊祖城跡、浦添大公園一帯の歴史・文化拠点、国際協力機構沖縄センター（JICA沖縄）を中心とした人的交流の拠点である国際交流拠点及び運動公園やカルチャーパークが立地する学習交流拠点が位置するゾーンです。
このゾーンを浦添市の過去から現在に至る国内外交流をはじめ、さまざまな市民活動が展開する交流空間として整備します。そのためには、浦添グスクの復元などによる歴史的環境を創出するとともに、遊歩道を含めたアクセスを整備します。また、水と緑の環状軸と一体となった豊かな緑地の保全・育成を図ります。

主要都市機能の配置

・市役所をはじめ、浦添市立中央公民館、浦添市立図書館、浦添市美術館、浦添市でこホール等が立地するカルチャーパークと、浦添市民体育館や浦添市民球場等を備えた運動公園は、行政・文化・スポーツ機能が集積した本市の拠点です。各種行政サービスや文化活動、スポーツ・レクリエーション活動など、快適で利便性の高い学習交流環境を整備します。

■ 浦添市ティードヌファみどり計画（令和2年5月改定）

- 浦添カルチャーパーク、浦添運動公園一帯を浦添の自然を豊かにするみどりの拠点として整備を図ることが示されています。



「浦添市の顔となるみどり」である浦添運動公園、浦添カルチャーパークをはじめ、沖縄都市モノレール経塚駅、浦添前田駅を有し、市外から訪れた人が車窓から浦添の魅力を感じられるような眺望づくりなど、市の新たな玄関口としての期待が寄せられる地域です。

運動公園及び施設に関する方針等

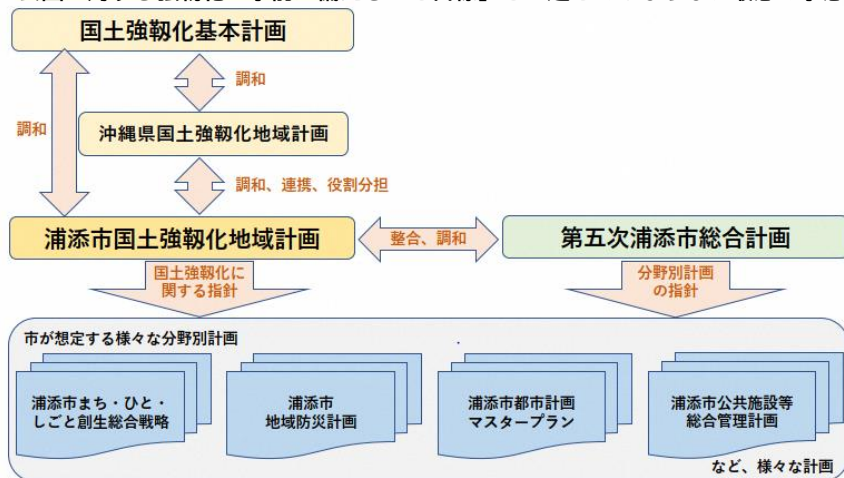
- 本市のほぼ中央に位置する浦添大公園、浦添運動公園及び浦添カルチャーパーク、そして近隣の前田公園等のエリアをティードヌファのみどりの顔として位置づけそこから全市域へみどりの効用を波及させていきます。
- まちづくりの視点から、みどり（浦添カルチャーパーク・浦添運動公園・浦添大公園・前田公園等）のポテンシャルをさらに引き出し、その活用を充分に図り、公園緑地の整備を促進、市域全体にみどりのネットワークを形成していく。
- 都市の安全性を高めるために、浦添カルチャーパーク、浦添運動公園一帯を安全なまちづくりを推進するみどりの拠点としての整備を図ります。また、防災性を高めるみどりの推進エリアとして、牧港や城間、屋富祖等の密集市街地でのみどりの創出を図ります。
- 浦添大公園・浦添運動公園・浦添カルチャーパークの整備推進を行います。浦添運動公園は、市民のレクリエーション及び地域の防災拠点として充実を図るため、引き続き公園内施設の整備を推進するとともに、公園部分の維持管理に努めます。
- 地域に親しまれる公園づくりとして公園緑地は、みどり豊かな安全で快適なまちづくりに欠かせないものです。本市はこれまで浦添運動公園等の大きな公園から街区公園等の小さな公園まで様々な公園を鋭意整備してきました。しかし、まだまだ身近な公園等の設置には地域的な偏りが見られるため、今後バランス良く公園を配置していく必要があります。

計画の中での運動公園の立ち位置

■ 浦添市国土強靱化地域計画（令和4年3月策定）

- ・災害時における「避難地・避難路の確保」を念頭に、都市基幹公園等の広域避難地、住区基幹公園の一時避難地を計画的に配置・整備し、避難地及び避難路を確保します。

公園に対する強靱化「事前に備えるべき目標」と「起きてはならない最悪の事態」



①直接死を最大限防ぐ

②救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

③必要不可欠な行政機能は確保する

④必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する

⑤経済活動を機能不全に陥らせない

⑥ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる

⑦制御不能な複合災害・二次災害を発生させない

⑧地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する

避難地・避難路の確保

都市基幹公園等の広域避難地、住区基幹公園の一時避難地を計画的に配置・整備し、避難地及び避難路を確保する。

■ 浦添市地域防災計画（平成31年3月修正）

- ・浦添運動公園及び浦添カルチャーパークは広域避難場所に指定されています。

・災害対策基本法（昭和36年・法律第223号）第42条及び浦添市防災会議条例第2条の規定に基づいて、浦添市の防災対策に関し、概ね次の事項を定め、もって総合的かつ計画的な防災行政の推進を図り、防災の万全を期するものである。

運動公園に対する対応

広域避難場所

都市基幹公園等の広域避難地、住区基幹公園の一時避難地を計画的に配置・整備し、必要に応じ下水処理場等のオープンスペースを利用した避難地及び避難路を確保するとともに、誘導標識等の設置を推進し、消防・避難活動等の対策を強化する。

災害時の食料供給活動

（1）食料の集積（保管）場所及び管理・輸送

食料の集積（保管）場所は、浦添運動公園内屋内運動場とし、管理及び輸送は総合総務対策部物資班が行う。

（2）食料の配給

配給する食料は、災害発生第1～2日目は、備蓄食料等を基本とし、第3日以降は、炊出し、救援物資等により行う。配給は避難所担当班が主導し、避難者、地域住民、自主防災組織等の協力をもって行う。配給の際は、物品受払い簿を作成するものとする。

■浦添市公共施設個別計画（長寿化計画）（令和3年3月改訂） ■新浦添市民体育館整備基本計画（仮称）（令和2年7月策定）

- 全てのスポーツ・レクリエーション系施設の一次評価は「維持継続」となっています。再配置方策においても全ての施設は「長寿命化」となっています。

・平成28年度に公共施設等の状況を客観的に把握・分析し、今後の更新費用の見込みを明らかにするとともに、公共施設マネジメントの基本方針等を示した浦添市公共施設等総合管理計画を策定。総合管理計画に示された方針に則り、「品質」「供給」「財務」の3つの観点から施設整備の具体方針を検討し、浦添市公共施設個別計画を策定。

スポーツ・レクリエーション系施設

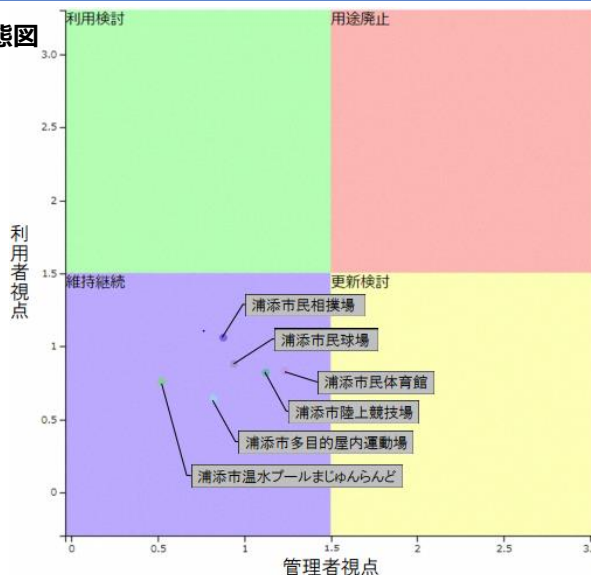
品質	・将来的にも存続が必要とされる施設は予防保全による計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を推進します。
供給	・スポーツ・レクリエーション系施設は、地域住民だけでなく広域での利用が想定される施設であるため、周辺自治体や国・県保有の施設、あるいは民間施設との機能連携や相互利用など広域的な視点で配置を検討します。
財務	・受益者負担の観点から使用料の見直しを検討し、また維持管理の適正化を図ることでライフサイクルコストの縮減を図るとともに、民間資金を活用した運営方法等についても検討します。

例	施設名	延床面積 (㎡)	建築 年度	築年 数	管理者 視点	利用者 視点	建物 劣化度	優先 度	一次 評価	再配 置方 策
	浦添市民体育館	7700	1996	34	1.23	0.83	C	高	維持 継続	長寿 命化

■施設の状態図

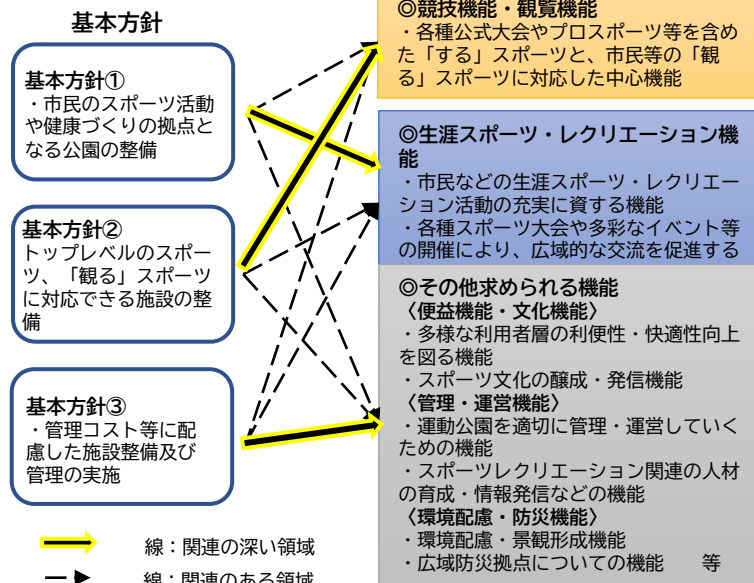
■施設の状態

- 全てのスポーツ・レクリエーション系施設の一次評価は「維持継続」となっています。再配置方策においても全ての施設は「長寿命化」となっています。
- 建物劣化度は浦添市陸上競技場、浦添市民体育館、浦添市民球場が「C評価」となっており、浦添市陸上競技場と浦添市民体育館の築年数が30年経過しています。



- 既存市民体育館の老朽化や空調設備の未整備等の様々な課題を解決するため、新たに多目的運動施設（新市民体育館）の整備が計画されています。

求められる機能とその概要



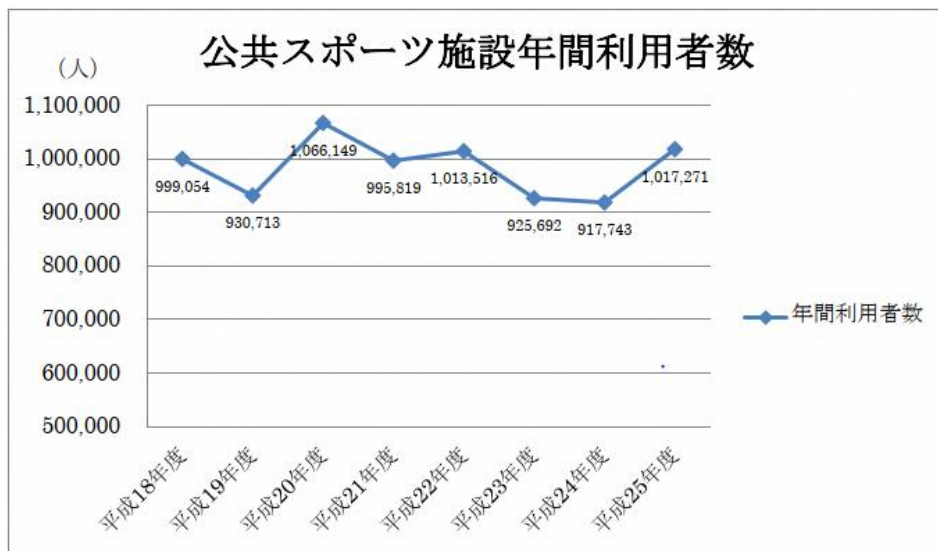
新市民体育館	新規整備	市民のスポーツ・レクリエーションニーズへの対応や「みる」スポーツ機能充実を図るため、新市民体育館の新規整備により、 既存市民体育館との役割分担を図ります。
陸上競技場スタンド	再整備	老朽化がみられる陸上競技場スタンド（階下の諸室機能含む）について、 新市民体育館との一体化による再整備 を図ります。
市民相撲場	移転整備	新市民体育館を陸上競技場スタンドと一体的に整備することで現位置の相撲場の維持が難しくなることから、 移転・再配置 を行います。
駐車場	拡充	現状でも駐車場が不足しており、 新市民体育館の整備による駐車場ニーズの増加に対応するため、一定量の確保を検討 します。

■浦添市スポーツ推進計画（平成27年3月策定）

- ・本市のスポーツ活動拠点である浦添運動公園の整備・充実に取り組むとともに、新たな施設の設置に向け関係機関と連携し検討することが示されています。

○スポーツ施設の整備推進

- ・浦添市立体育施設や浦添市温水プールまじゅらんどの施設老朽化に対し計画的に改築・修繕を進めるなどし、本市のスポーツ活動拠点である浦添運動公園の整備・充実に取り組むとともに、新たな施設の設置に向け関係機関と連携する。



- ・浦添市の公共スポーツ施設は浦添運動公園以外に、ゲートボール場、伊奈武瀬球場、市民テニスコートなどがある。
- ・公共スポーツ施設の週末や休日の利用は、各種大会やイベントで飽和状態にありますが、平日昼間の利用は比較的に少ない状況にある。

■浦添市観光振興計画（平成30年3月策定）

- ・ヤクルトキャンプの観戦者をはじめとする各種スポーツの参加者・観戦者を対象に、競技前後の時間を浦添市内で滞在してもらうための取組の充実と消費機会の創出により、商店街や飲食店の活性化を図っていくことが示されています。

施策：スポーツツーリズム・MICE観光等の推進

魅力ある新たなスポーツイベントの創出



- ・スポーツツーリズムを推進し、多くの競技者・観戦者が訪れ、あらゆる人が楽しめる場所にしていくために、魅力ある新たなスポーツイベントを創出していきます。

スポーツ環境の整備・充実



- ・スポーツ施設の整備や充実を図り、積極的にスポーツチーム等の合宿や大会などの受入を行い、魅力的なスポーツツーリズムを推進していきます。

スポーツツーリズムの充実



- ・ヤクルトキャンプの観戦者をはじめとする各種スポーツの参加者・観戦者を対象とし、競技前後の時間を浦添市内で滞在してもらうための取組を充実させ、消費機会を創出し、商店街や飲食店の活性化を図る。
- ・浦添市は、平成 16 年にハンドボール王国を宣言し、多くの選手、指導者を輩出してきました。市民だけではなく、市外の方々に対してもその認知度を高めていくために、ハンドボールと触れる機会を創出し、積極的に PR を図ります。

- ・ 上位計画・関連計画や現場踏査及び既往資料の結果から取り組むべき方向性を示します。

